

【議事録】第1回まちづくり在り方検討会議

日時：令和6年11月20日（水）15時～16時

場所：苫小牧市役所5階第2応接室

【出席者】

○苫小牧市

木村副市長、町田総合政策部長、成田未来創造戦略室長、林都市再生主幹、関係課職員

○委員

出光興産株式会社	：管理課長	小林氏
一般社団法人苫小牧観光協会	：専務理事	永井氏
苫小牧商工会議所	：専務理事	外園氏
苫小牧信用金庫	：常務理事	大沼氏
株式会社苫東	：執行役員審議役	坂本氏
トヨタ自動車北海道株式会社	：グループ長	小林氏
北洋銀行苫小牧中央支店	：副支店長	糸川氏
北海道銀行苫小牧支店	：副支店長	中島氏
北海道電力株式会社道央南統括支社	：支店社長	吉田氏
苫小牧港管理組合	：専任副管理者	佐々木氏
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校	：教授	村本氏
国立大学法人室蘭工業大学室蘭工業大学	：教授	有村氏

○業務受託事業者

デロイトトーマツコンサルティング合同会社

朝日氏、田中氏、杉江氏、鹿野島氏、渡邊氏

【検討結果】

- ◇ コンセプトとキーコンテンツ、方向性について各委員にご理解をいただいた
- ◇ 検討内容の実効性を高めるため、各委員のご意見を踏まえ、エリア別に示した施策案の具体化を進める

【議事詳細】

1 まちづくりの在り方のコンセプトと3つのキーコンテンツについて

(1) 総合計画・都市再生コンセプトプランとの関係性

- ・ 総合計画は、市全体の方向性を大まかに示したものであり、それにぶら下がる形で都市再生コンセプトプランや、在り方検討が行われていると理解。総合計画、都市再生コンセプトプランで考えていた内容が、4つのビックアジェンダによって加速/

障害/修正されるのが重要

- 本来的には、追求すべき普遍的なまちの目指す姿があるべき
- 現状は、4つのビッグアジェンダありきで、それへの対応方針を語っているように見える
- もともとあった計画にビッグアジェンダを含めていくか、修正していくか、考え方を示す必要があるのではないか
- 単年の議論ではなく継続して、色々な変化をとらえていくことが必要である
- 総合計画は市全体を網羅するような計画であり、成長戦略としての再生コンセプトプラン、これに本市の強みを加えたものが今回の検討。4つのビッグアジェンダがあることが強みであり特徴。これらの強みを生かして都市機能を成長させていくかを具体化していきたい

2 在り方の方向性案で示した、個別のエリア単位の打ち手について

(1) 中・小規模事業者の参画

- 特にグリーンエネルギーのモデル都市化について、中小規模事業者も関わることのできる取組を検討していただきたい
- スタートアップの観点に期待。中小企業を育成する国の施策等もあるので、苫小牧市の取組を進め、スタートアップが成長していくことに期待している
-

(2) 人材育成

- 大企業の進出に伴い、中小企業やスタートアップの進出も期待される。そういった企業に対応する人材育成があり、さらに企業の進出が加速されるようなサイクルの実現が望ましい
- 特にスタートアップの誘致は重要だが、その具体策は非常に難しいため、行政としてどのようにサポートしていくかを要検討
- 人材について、都市再生コンセプトプランの分析との統合などの観点も加えながら、（必ずしも企業の理論に偏らない）市民からも共感・賛同してもらえるまちの将来像を提示して欲しい。市民の共感・感動の観点からは、分かりやすい取組事例の紹介等も、有効なアプローチになる

(3) 移動・交通施策

- 移動については難しい課題だと思っている。苫小牧市はJRも活用が難しく、バスのスピード感をどうにかしないと使い物にならない。また、今後の電車・バスの便数減少に対してどのように対応していくかの検討も必要
- 北海道の特徴を踏まえると、マイカーも欠かせず、複合的な施策が重要

- 自家用車で移動できない方（高齢者・子ども）の移動手段の確保が重要であり、送迎地獄による負の影響を最小限に食い止める必要がある
- 利用が促進される打ち手が求められ、現状では速度が遅い自動運転よりも、大量輸送・速達が期待できる接続バスや、BRT 等によりドライバー不足に対応したアプローチの検討も重要

(4) GXの取組

- まちづくりと一体となったGXの取組を推進したいと考えている
- カーボンニュートラルを進めないと、製造業を続けることすら難しいという危機感をもっている
- 苫小牧は、日本の中でも有数の技術やアセットが集まっている都市だと考えており、それらの連携をさらに期待したい
- 一方で、コストの高さがネックであり、スケール効果が発揮されるまでの間は、一般消費者にその負担をお願いすることも難しい。そのため、官と連携しながら一定規模での需要の創出を期待したい
- GX、グリーンエネルギーは自社としても検討を進めている。一方で、一般的に省エネの効果が大きいことも併せてとらえていきたい
- 再エネ発電は、苫小牧市としては地理的な制約があるため、地産地消にこだわりすぎると再エネの導入が遅れる可能性もいめない。近隣の自治体と連携することも方法論的にありではないかと考える。今後、価格や普及という観点に立った時に、需要を促進することが条件であり、苫小牧市としても促進方策を検討していく必要がある

(5) 地域産業へのインパクト

- 地域の産業に、どのようなインパクトを生むかの整理が重要
- どのような波及が期待されるのか、それに対してどう取り組んでいくべきなのかを、より明確化を図ってほしい
- ビックアジェンダにかかわる企業進出が来た際に、交流人口、定住人口が増えるのか、その場合に長期滞在するための施設はあるか、また CO₂ 増にどのように対応するのか等を想定する必要がある

(6) 観光

- 観光目線では、ホテルが無い、移動手段が無い、駐車場が無い等、インフラ面の環境整備が不可欠
- 観光の観点からまちづくりができていなかった背景あるため、どうやって観光需要

を促していくのかを検討していく必要がある

- 地元にどれくらいお金を落としていくか、苫小牧市民にとって、どのような便益があるのかをより明確に遡及できると協力を仰げるのではないか
- 交流人口に向けた地域の特徴・魅力を生かした新たな体験や施設の提供が望ましい

3 まちの発展を見据えたときに、さらに検討をしていくべき打ち手や取組へのご意見やアイデアについて

(1) 苫小牧ならではの新たな在り方の検討への期待

- QOL を従来の価値観で捉えるのか、価値観の変化の方向性を見据えたものにしていくのが重要
- 苫小牧ならではの、将来の変化を見据えた新たな在り方の検討にも期待したい
- 苫小牧の特徴・強みを生かした整理に期待したい
- これだけのビックアジェンダをもつ都市は稀有であり、これを有効活用したまちづくりが必要と認識している
- 1950 年と 2040 年の人口が一緒、一方で我々の頭や生活は 1995 年の人口ピークから変わっていない。その危機感がある

(2) 具体的な施策案についての要望

- 具体的な施策や取組について例示していくことが、理解を促すうえで有効と考える

(3) 地域貢献について

- 地元にどれだけお金を落とせるのが重要。地元企業が苫小牧の変化に対して第 3 者的、傍観者的な視点が強く、自分事としての認識が弱い。事業者に対するインセンティブ、巻き込みが重要